



# 子宮頸がん検診 Q&A

## Q.細胞診でなにがわかるの？

**A.** 採取した細胞をガラスにこすりつけ染色し、顕微鏡で見ることで、がん細胞の有無を診断するほかに、異形成細胞（がんになる前の細胞）があるかどうかを見つけることができます。

もし見つければ、それが今後がん化するものかどうかを、定期的に検査することで、進行がんになるのを防ぐことができます。

## Q.いつ受ければいい？

**A.** 正しい判定のために、なるべく月経中は避けて、月経終了後3～7日の間に受診するとよいでしょう。

また、痛みはない場合がほとんどですが、細胞を採取する時に、若干出血することがあります。ほとんどは自然に止まります。

## Q.早くみつかるとうがらいい？

**A.** 検診を受けることで、がんを早期発見できれば、自覚症状が出てから発見された場合と比較し、完治の可能性も高く、お金や時間の負担も軽いです。逆に、がんが進行して他の臓器に転移すると、治療は難しくなります。その場合は長期入院が必要になるなど、時間も費用の負担も増えることが多いと言えます。

<子宮頸がんの5年生存率>

病期	5年相対生存率
I期	95.0%
II期	79.1%
III期	62.3%
IV期	23.6%

(がんの統計 '16)



## Q.どんな検査？料金は？

**A.**

【問診】妊娠出産歴、月経の状況、症状の有無などについて、お聞きします。

【視診】子宮頸部などの状態を見て診察します。

【内診】子宮、卵巣などを触診します。

子宮の大きさや卵巣腫瘍の有無などを診察します。

【細胞診】子宮頸部の細胞を綿棒でこすって採取し、細胞を顕微鏡で調べます。

\*料金：20歳以上の方は自己負担1,300円  
上記以外の検査を行った場合は、別途料金がかかります。  
担当の医師とよく相談しましょう。

## Q.子宮全摘しましたが検診は受けるべき？

**A.**

基本的に子宮全摘していれば、子宮がん検診は不要ですが、子宮全摘の術式の中には、子宮頸部を残すものなど様々なものがありますので、がん検診の必要の有無は主治医に相談するとよいでしょう。